

5月下旬、熊本市東区の県民総合運動公園で行われた県高校総合体育大会のラグビー準々決勝。屈強な男子選手に交じって、機敏な動きでプレースを追い、熱戦をコントロールする女性の姿があった。主審を務めた神村（29）＝兵庫県宝塚市在住＝だ。2017年春から2年間、崇城大で航空機の操縦を学ぶため熊本市で暮らし、今春から航空会

楯円に魅せられて

ラグビーW杯がやって来る

2019.8.11

レフェリー 神村 さん

女子競技に貢献したい

社ジエイエア（本社・大阪府池田市）にパイロットとして勤務する。

「縁あって住んだ熊本。お世話になった人たちに最後の

あいさつをしたい」。この日は関西に拠点を移して数日後という慌ただしさの中、本人たつての希望で試合の笛を吹

刺激を受け、「私も新しいこ



かみむら・えり 公文国際学園中・高（神奈川）一早大卒。女子ラグビー日本代表として2013年のW杯アジア地区予選などに出場し、代表キャップ5。ポジションはフランカーやセンターなどをこなした。関西協会公認レフェリー。

日本航空に就職し、機体整備を担当。社業と選手生活の間で、「どちらかをやめなければ体がもたない」と一時、競技から身を引いた。17年に退社し、パイロットの資格を取るため崇城大に入学したのを機に、楯円（だえん）球との距離が再び縮まった。

とに挑戦してみたくなった。早大に進学後、多くの日本代表を輩出した名門ラグビークラブ「世田谷レディーズ」（東京）に入会。「フィール

知人もいない環境の中で「もっと熊本とかかわりたい」と、クラブチーム「熊本サンデーズ」に加入し、ジュニア部門のコーチになった。子どもたちに競技の楽しさを教えながら、同年にレフェリー資格を取得。いまは国際大会の審判を目指しスキルアップに励む毎日だ。

熊本に身を置いたことで、競技熱を高めたかと思いが強まった。「男子のチーム数が少なく、女子がラグビーを体験できる場面すらほとんどない。関東には7人制のチームがたくさんあって盛ん。熊本にもできれば、もっと門戸は広がるはず」と願う。熊本も会場となるワールドカップに大きな期待を寄せ、外国人プレーヤーの熱戦でチームが来ると思う。一方で、地道な普及活動の必要性も訴える。「競技力の向上には、確かなレフェリングが必要。女子ラグビーのために貢献したい」（敬称略、佐藤公亮）

高校生男子ラグビーに交じって軽快に動き回る神村 主審
5月31日、県民総合運動公園